

神に賞賛される生き方 ～神の目線～ 「バイブルリテラシー」

I テモテ5 : 21 ~ 25

■ バイブルリテラシー ～愛という聖書の土台で物事を適切に理解し、見極める～

お母さんはどんな時でも子供の味方です。他の子供から意地悪を言われてけんかしたときには「将来必ず美しくなる」と励まし、病気の時には元気になるように看病します。スポーツをしている時には一番の応援者となり、学校で学ぶ時にもサポートしてくれます。進路が決まらないで悩んでいるときには「あなたの才能を理解してくれるところが必ずある」と言って励まし、仕事で成功したときには誰よりも喜んでくれます。お母さんはいつも「私」の誤った目線を、愛情を持って正してくれる存在です。

リテラシーとはもともと「読み書きの能力」を指す言葉ですが、現代では「適切に理解・解釈・活用する力」を意味する言葉として用いられています。情報過多の現代に生きる私達は、愛という聖書の土台で物事を適切に理解し、解釈、活用する事が求められます。

私達が生きる社会には沢山の情報が溢れています。その中には私達を特定の方向に誘導しようとする偽りの情報も含まれています。沢山の情報は多くの事実の一部分を切り取ったものであり、それは私達に誤った受け止め方をさせます。物事を正しく見極められない私達がそこにいます。そんな中で、聖書の言葉は私達を正しく判断できる力を養ってくれます。

■ ルールが先ではなく愛が先

パウロは愛弟子であるテモテに対して「水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。」(第一テモテ5章23節)と書き送っています。「お酒を飲んではいけない」とルールで縛るのではなく、テモテの健康を気遣い、愛を持って教え、勧めています。まるで母親のように、テモテに起こっている問題を神の愛によって具体的に解決しようとしています。

『この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出てくる愛を、目標にしています。』(第一テモテ1章5節)と書かれているように、正しい良心と偽りなき信仰からくる愛によってパウロの言葉は記されています。そしてこの愛が土台としてあるなら、誹謗中傷されるような状況にあっても、それに影響されることはありません。

私達は正しく行えているでしょうか？何事にも隔たらない客観的な目線で見ることができていないでしょうか？人間関係が敵味方になってしまうような、偏った見方になっていないでしょうか？

■ 神の目線 社会のリテラシー≠聖書のリテラシー

民数記13章14章でモーセは「約束の地」に40日間にわたって12人の先遣隊を遣わしました。神がイスラエル民族に与えると約束された地がどのようなところであるかを偵察するためです。13章後半で先遣隊が帰ってきて約束の地がどんなところであったかを報告します。その報告では、約束の地は確かに乳と蜜の流れる地であるが、その町には城壁があり、その住民は非常に背が高く、イスラエル民族では太刀打ちできないと伝えられました。しかしそのかなでヨシュアとカレブの2人は「主にそむいてはならない。その地の人々を恐れてはならない。彼らは私たちのえじきとなるからだ。」(民数記14章9節)と語り、約束の地に行く事

を主張しました。10人は約束の地に入れないと言い、2人は入れると言います。同じものを見てきた12人中で、こんなにも受け止め方に違いがありました。私たちの中でも同じ事が起こります。同じ事実でも伝える人によって内容が異なって来る事があります。その中には社会常識としては通用していても聖書の考えに反する事も存在します。約束の地の城壁が巡らされた町を征服するのは、当時のイスラエルの人達にとっては簡単なことではなかったかも知れません。少なくとも10人にはそう見えていました。しかしヨシュアとカレブにはそれとは別のものが見えていました。

■ 神の方法 ～バイブルリテラシー～

神は私達には理解しがたい方法を用いる方です。エリコの城壁での出来事は人間的に見れば滑稽に思える方法でした。聖書にはこのような不思議な出来事が沢山記されています。

約束の地に行く前にモーセによってヨシュアは名前を変えられました。はじめは「ホセア」(救う)という意味でしたが、「ヨシュア」(主は救い)と変えられました。救いの役割は変わりませんが、自分の方法ではなく、神に従い神の方法で救う者となりました。私達も自分のやり方ではなく神に従い、その役割を果たさなければなりません。イエス様はたとえ石に打たれる危険があっても、その人を癒やし助け、正しい道を示し続けられました。どんな時にも神に祈り、当時の社会常識やルールではなく、聖書の規準で物事を正しく判断する方法をとられました。

■ まとめ

社会のリテラシーと聖書のリテラシーは異なります。神の方法は信じて行う体験を積み重ねる事を通して学んでいきます。そして客観的な事実を受け止めるために、私達は互いに寄り添い、共感し、一緒に目標に向かって歩みます。そうする過程で互いに正しいことを体験し学んでいくのです。1人では偏ってしまう見方も、寄り添う人がいることで客観的で正しい視点を得ることが出来ます。しかし正しいことを行うときには社会から非難されることがあります。その様なとき、たとえ非難されたとしても神の前に正しく行っているなら揺るがされることはありません。だから行動する前に神に祈るのです。

バイブルリテラシーを体験し、神の前に真実で正しく愛を目標として生きる者へと、お互いに励まし合いながら成長していきましょう。

(要約者:日名洋)

(2022年5月8日)